

まちの 空を見あげて

vol.17

11月3日は、明治天皇の誕生日にあたり、現在は日本の国民の祝日である「文化の日」です。

私たちは外国人と交わることで、よってしか日本文化を意識する事はありません。他者と出会う事で自分の国柄に、気づく事も出来ないものなのです。外国語を学ぶという事は日本という文化を自覚する為に必要な、他者と出会うひとつの道だと思っています。私は、外国語を学ぶ子どもたちに期待したい事があります。それは、地球上の様々な言語世界は、私たちが豊かに生きるために、こんなにも多様な姿を示しているという事。その複雑さに対する畏敬の念を、音声の響きの中に感じ取ってほしいという願いです。それぞれの母国語の響きには母が生み出した命のようにみずみずしいものがあると思います。外国人が話す日本語に新鮮さを感じるように、私もこの妹背牛町で言葉を愛する文化を育みたいと、切実に願っている皆様の仲間の一人だと思っています。

町長 田中一史

モー突進レポート

翔 SHOW TIME たいむ

vol.6



文化の日も近づいてきたということで、今回は日本の伝統楽器「箏」を体験。妹背牛町文化連盟に所属する「小田社中箏みやび会」の練習に参加し教えていただきました。

小田社中は生田流師範の小田弘雅さんが主宰、30人の会員で活動しています。江戸時代からの長い伝統に培われた生田流は、古典的な曲だけでなく現代曲も取り入れながら、日々音の世界を模索し、稽古に励んでいます。

中学校の音楽の授業で箏を体験したことがある僕は、なんだか懐かしい気持ちで練習場所に到着、ドアを開けるとすぐに心が落ち着くような音色が聞こえてきました。音楽の授業で演奏したものは1メートルほどだったのに対し、今回の箏は縦にすると僕の身長よりも高く、「これが本物の箏か」と再認識しました。

早速、小田先生の指導で演奏をしてみようということで、まずは弦を弾くための爪を付けます。生田流では四角い形の爪を使用し、角を使って演奏します。そのため、弾きやすいように箏に対し斜めに座るのだそうです。この爪は演奏がしやすいようツルツルとしています。たてる角度によっては滑って弦を弾けないこともあり、



生田流で使われる四角い爪

「小田社中箏みやび会」



これがなかなか難しかったです。

箏曲として代表的な「さくら」を教えていただけることになり、弾いてみると「やっぱり男の人が弾くと力があって音が良いね」「覚えるのが早い、上手上手」とほめていただきました。単純な僕はとてもいい気分です。分で曲の序盤までを弾ききりました。お手本として先生に弾いてもらうと、当然ではありますが、リズム感や弦を弾く強さがとても心地よくステキな演奏でした。最後は僕のつたない演奏に合わせていただきみんなで合奏。たくさんさんの音が重なるとさらに美しく迫力もあるように感じました。

一つの楽器の中でも様々な部分で奥深さがあるんだなということが箏を通して実感できました。小田社中は11月3日に行われる町文化祭で演奏を披露する予定です。あの美しい音色を楽しみにしています。



みなさんと合奏とても楽しかったです